

立川に米軍基地があった頃

JA1WOB 齋藤

立川に米国の空軍基地があった頃に私はアマチュア無線に出会いました。立川駅の北口左側には、日通の窓口があり多くの荷物が積まれていました。駅舎には3つ改札口があり、跨線橋を渡ると中央線の上り下りのホームがありました。改札口から右に続くホームには、青梅線兼五日市線のホームがありました。また、跨線橋を渡り、南口に寄った所にあるホームは南部線でした。その他に、貨物線が何本もあり、多摩地区では大きな駅でした。北口向かって右側には、タクシー乗り場があり、日本人が乗る一般タクシーと基地に来た、米国人が乗るベースタクシーに区画されていました。1964年当時の一般タクシーはコロナ・ブルバードクラスの1500cc車が多く、ベースタクシーはクラウン・セドリッククラスの2000cc車でした。色も、いかにも米軍的でネービーブルー車体に黄色で「BASE-TAXI」と書いてありました。北口から立川通りを北に向かうと、直ぐに緑川の曙橋を渡り、そして、斜め左が「フィンカム通り」でここに近寄っては、いけないと学校から通達がありました。(少年には危険な所) その「フィンカム通り」の手前に米軍立川空軍基地の正門がありました。立川通りから少し奥まった所が正門なので、米兵の顔までは認識できないが、ライフルを肩から下げた姿はハッキリと見えました。



1964年頃の立川駅と通学の高校生たち

また、クリスマスの時期には2本の大きな木に電飾を施してとても綺麗でした。基地内に入る米軍関係者は、立川駅からBASE-TAXIに乗り正門に消えていきました。多分、正門から入り一番奥の飛行場や格納庫に行くにはTAXIに乗らないと大変だったのでしょう。〈資料によると580万㎡で南北2.5K 東西2.5K〉今でも立川駅から当時の基地の最北に当たる「砂川学習館」まで徒歩だと30分以上は掛かると思います。

青梅線の西立川、東中神、辺りまでが基地の南側で住宅地などがありました。立川駅の改札を出て、左に行くと第一デパートがあり、6Fの屋上に上ると米軍立川飛行場や離着陸する飛行機が一望出来ました。

1964年当時はベトナム戦争中でしたので、5分~10分間隔で次々と輸送機が降りて来るのが良く見えました。飛行機のリベットは勿論のこと、パイロットの姿も良く

見えました。

南口は北口より小さな駅舎で駅前には小さな商店がありました。南口を降りて右に曲がり進むと2～3個の小さな映画館がありました。

南口は、開けた感じの北口と比べて田舎の駅前の感じでタクシー乗り場もバス停も北口と比べると小じんまり、していました。

飛行機に必要な燃料を基地内に運ぶために、中央線や青梅線から基地内に引き込み線がありました。

青梅線は東中神駅から基地の西側に向かい、引き込み線がありました。今でも引き込み線跡として道路が残っています。中央線は立川と国立の間の立川市羽衣町辺りから、東側の基地への引き込み線がありました、引き込み線は立川通りや芋窪街道を横切るのです。そのたびに20両位のタンク車が通り過ぎるのを待たされました。



第一デパートの屋上から見た飛行機と立川基地

その、立川市羽衣町、辺りに米軍放出品を扱うジャンク屋がありました。

杉原商会（後の杉原電子）です、店と云うか小屋と云うか、引き込み線近くのジャンク屋には床は無く、地面に柱を立てて、プラスチックの波板を付けた小屋でした。でも、我々貧乏高校生にしてみれば、宝の山の小屋でした、真空管、ソケット、水晶、メーター、同軸ケーブル、コネクター、バリコン、コイル、抵抗、コンデンサ、などなど、受信機や送信機を作る為の部品はフンダンにありました。

また、必要とあれば無線機類から自分で外して買う事も出来ました。値段も1000円以上の物は買った覚えがありません。

また、蓋の空いた無線機類を眺めては、配線方法や部品の取り付け方法を真似して、リグの自作の参考にしていました。

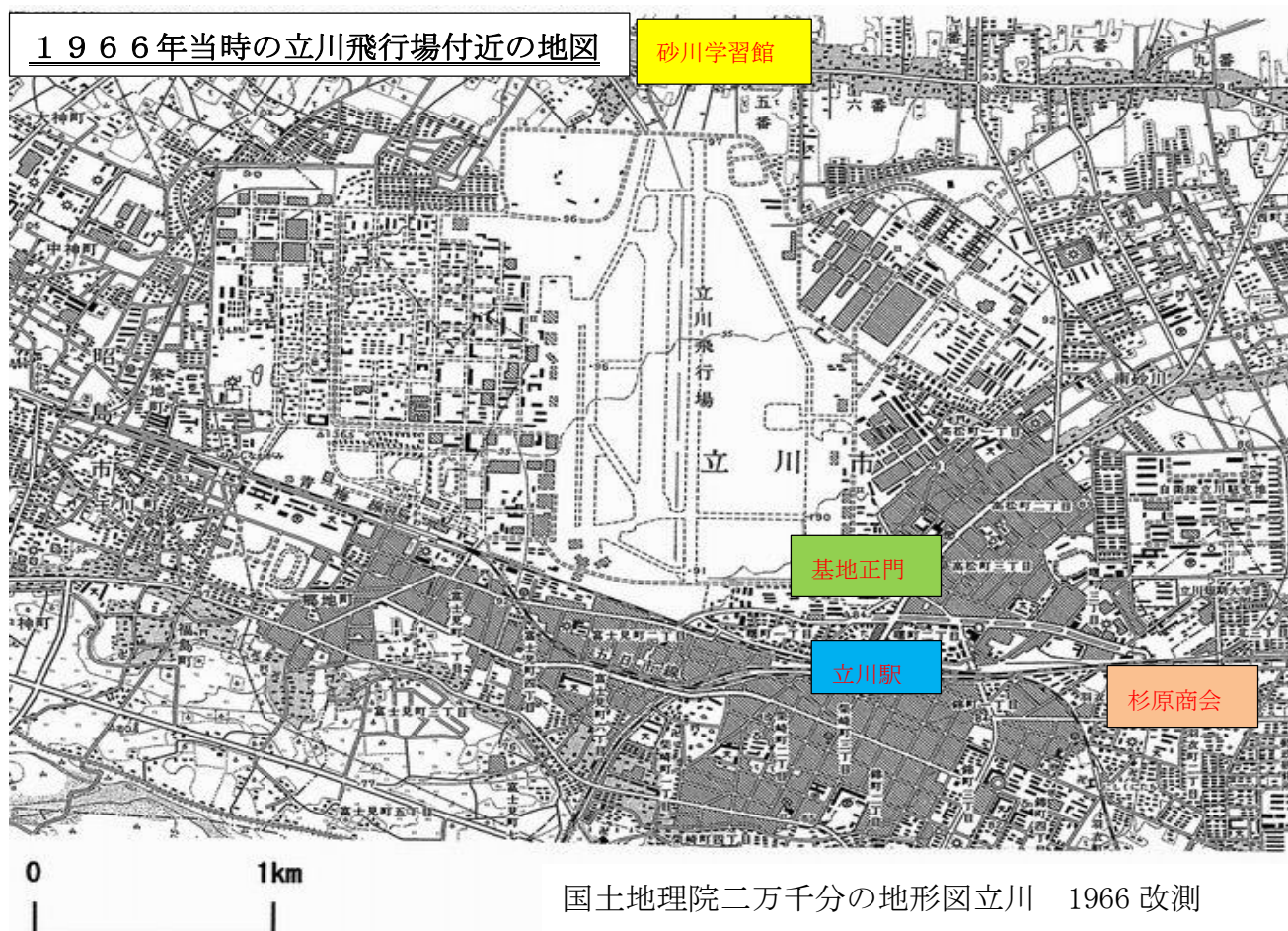
そんなある日、学校で米軍放出のBC779が沢山ジャンク屋にあるとの情報がありました、場所は杉原商会ではなく立川市の隣町の大和町（現在の東大和市）でした。

立川通りを北へ5～6キロの所にある大和町の都営団地の中にジャンク屋、いや屑屋がありました。行ってみると屑屋の庭先に所狭し、とBC779が重ねて積み上げてありました。

ほとんどが、ラックから外した状態の様でケースが無いものが殆どで、全面パネルはありました、摘みやSメーターやダイヤルギヤーが破損して無いものを幾つか選び、更に綺麗なものを2つ選んで、屑屋のおじさんと価格交渉をしました。

おじさん曰く「こんなもの、使えるの？」と云うので「部品取り」にするのだと云

うと、どれでも 500 円で良いよといわれました。



多分、おじさんは分解して鉄屑として売れば儲かると思ったのでしょうか、分解する手間を考えると 500 円の値がついたのでしょうか！

友人と二人 (JA1SIU) で重たい (10^{kg}) BC 779 をバスと電車で町田市まで運び、町田駅からはタクシーで自宅まで運びましたが、タクシーのトランクに 2 台の、BC 779 を載せると車体が沈んだように思います。

大和町には米軍立川基地の大和エアーステーションがあり通信隊の基地や学校や住宅などがあったので、そこからの放出と思われます。

BC 779 は高周波 2 段中間周波 3 段増幅のシングルスーパー受信機で、ノイズが少なく安定度が抜群で流石にプロ仕様だと思いました。

家に持ち帰り、部品取りと考えましたが、まずは試に火を入れてみようと思い、電源ラインを探してみると、シャーシの裏側にコネクター番号と電源電圧の仕様と回路図が書いてありました (流石 HAMMARLUND)

持合せの電源トランスが無かったので、送信機用の電源を使用するで、何とか真空管数 16 本の電源を賄う事にしました。

当時の我が無線設備は、①受信機②送信機+変調器③電源トランスの3ユニットで構成していましたので、独立している電源部からヒーターの電源やB電源を取るの
は全く改造無しで出来ました。

電源つないで、電源SWをONにして緊張しながら待つこと1~2分、真空管が全
てメタル管なので、ヒーターは見えませんでした、スピーカーからノイズが聞こ
えてきました。

異臭や煙が無いのでなんとか使える様です。

バンドSWを7Mc（昔風）に合わせると受信できました。AMの聞こえ方が、
JR200と比べると大人しい感じがします。

我が高周波1段中間周波2段のトリオJR-200改と比べると、S/N比は比べ
るのがバカバカしい程に低ノイズでした。

多分SNが良いので信号が浮き上がって聞こえているのでしょう。また、QRMが
あったので、IFシフトかノッチかXtalフィルターか覚えていませんがオンに
すると、サイドのQRMが消えて無くなりました。

また、SSBモードにすると綺麗なSSBで復調されました。JR200のBFO
オンでの復調とは全く違う音でした。



HAMMARLUND BC779受信機



上が、JR200下が送信機電源部

受信周波数は5バンド切替で、A. 100KC~200KC B. 200KC~400KC
C. 2.5MC~5MC D. 5MC~10MC E 10MC~20MCでした。

低い周波数では、港内船舶電話や漁業無線などが受信できて面白いのですが、アマ
無線では、3.5MC 7MC 14MCの3バンドのみにしか使用できませんで
した。また、電源も送信機用を兼用しなければならないので使い勝って、が悪く更
に大きすぎて置く場所に困り、半年ほど置いていましたが、HAM交換室で処分し
てしまいました。

1973年日米安全保障協議委員会で合意された「関東平野合衆国空軍施設整理統合計画」で立川飛行場はアメリカ軍からの全面返還が発表されました。

その翌年に私は町田市から東大和市の都営団地に引っ越しをしてきました、なにか見た事がある風景と思ったら、あのBC779を買に来た、屑屋さんの近くでしたなにか不思議な縁があるなと思いました。

その後、立川市に移転してシルバー人材センターでの仕事場が羽衣町の杉原商会近くである事にも縁を感じます。

週に4回シルバー人材の仕事に通う道は、砂川町から羽衣町なので立川基地の中を通り通勤しています。

終わり

下の写真は2015年の立川基地跡です。



旧滑走路跡が残る砂川五交差路付近



昭和記念公園砂川口



大山団地付近のアメリカンヴィレッジ



玉川上水駅前 大和基地正門跡石碑